



2021年1月21日

会社名 株式会社Macbee Planet
代表者名 代表取締役社長 小嶋 雄介
(コード番号：7095 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営管理本部長 千葉 知裕
(TEL 03-3406-8858)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会のライブ配信を行いましたので、お知らせいたします。

配信状況

配信日時 2021年1月12日 13:00～

配信方法 インターネットを利用したライブ配信

説明会資料名 Macbee Planet 投資説明資料

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料



Macbee Planet 投資説明資料

2021年1月12日

株式会社Macbee Planet
(証券コード：7095)

会社概要

社名	株式会社Macbee Planet
証券コード	7095
設立日	2015年8月25日
資本金	398百万円（2020年10月末現在）
事業内容	データを活用したマーケティング分析サービスの提供
本社所在地	東京都渋谷区渋谷三丁目11番11号
従業員数	56名(2020年10月末現在)

沿革

2015年 8月	株式会社Macbee Planet 設立
2015年 8月	データ解析プラットフォーム「ハニカム」リリース
2017年 11月	Web接客ツール「Robee」リリース
2018年 12月	営業活動拠点「福岡オフィス」を開設
2020年 3月	東京証券取引所マザーズ市場へ上場

企業理念

夢・目標を共に
実現しつづける組織に





 事業内容

我々が実現したいこと

LTV[※]を予測し
ROI[※]の最適化を実現する

※LTV (Life Time Value) とは

ユーザー（消費者）が生涯を通じて企業にもたらす利益のことを指し、1人のユーザー獲得にけることができる費用を算出するための指標

※ROI (Return On Investment) とは

投資に対してどれだけ利益をあげることができたのかという指標

事業内容

- 新規ユーザー(消費者)の獲得と既存ユーザーの解約防止を成果報酬型で提供。

<消費者行動>



LTVが高い
新規ユーザーの獲得

×

既存ユーザーの解約
防止によりLTVを向上

業種別クライアント事例

美容

来店型

- ・美容エステ
- ・AGA
- ・医療脱毛

EC

- ・スキンケア化粧品
- ・健康食品

POLA

金融

銀行

- ・カードローン 

証券

- ・証券会社
- ・FX・仮想通貨




ネオモバ

保険

- ・学資保険
- ・保険相談

その他

- ・VOD
- ・オンライン教育
- ・総合通販
- ・求人メディア
- ・ぐるめメディア
- etc





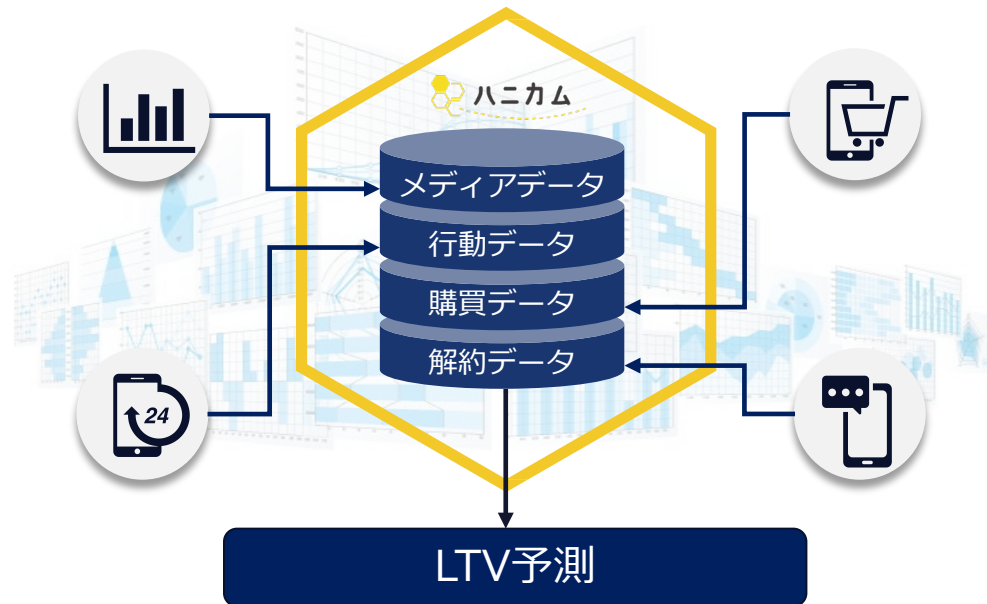


アナリティクスコンサルティング事業

■データを解析し構築したLTV予測を基に成果報酬型で集客。

1 LTVデータの解析

メディアや自社ツールから取得できるデータを解析し、LTVが高いユーザー像を構築。



2 データを活用し成果報酬型で集客

データを基に当社のコンサルタントがプランニングし、新規ユーザーの集客を完全成果報酬型で実施。



成果報酬単価 × 成果発生件数

原価：メディア掲載費用
売上総利益率：約15%

マーケティングテクノロジー事業

■ 新規顧客のLTV向上と、既存顧客の解約率を下げることでLTVを向上。

1 集客したユーザーを顧客へ転換

集客したユーザーに対しRobeeが接客しLTVの高い顧客へ転換させる。



Web接客

月額固定 or 成果報酬

原価：なし
売上総利益率：100%

2 既存ユーザーの解約を防止

解約を検討する既存ユーザーに対しチャットボットで継続を促進。解約率を低減させLTVを向上。



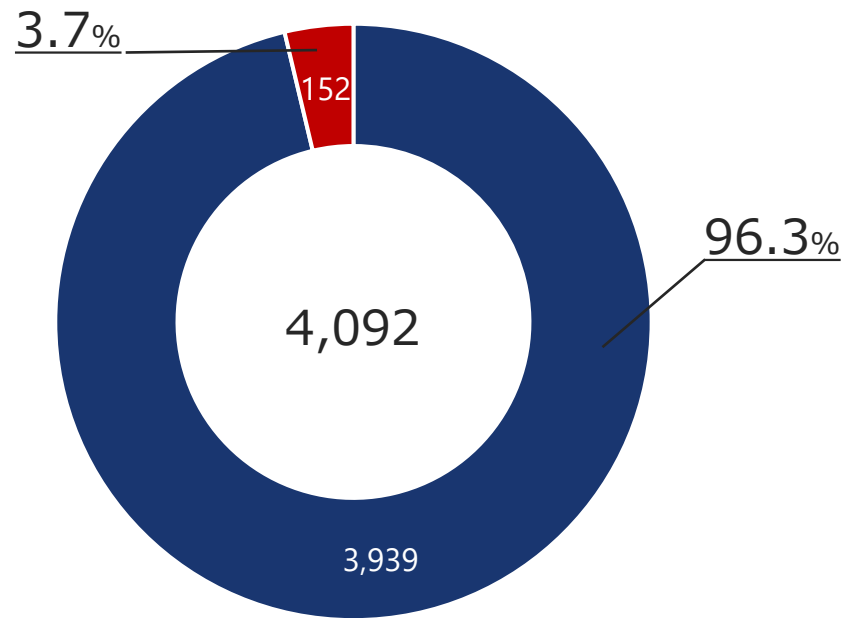
解約防止 チャットボット

月額固定 or 月額費用 + 成果報酬

原価：なし
売上総利益率：100%

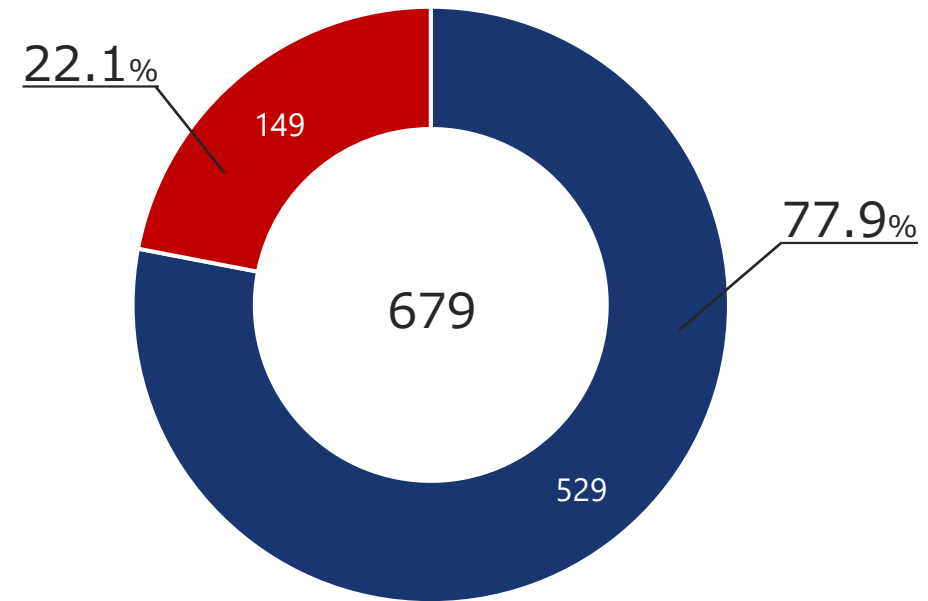
売上・売上総利益構成比（2021年4月期 2Q）

売上高（百万円）



■ AC事業 ■ MT事業

売上総利益（百万円）



■ AC事業 ■ MT事業

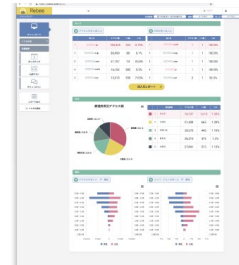
Robee Web接客

■顧客転換率を向上し、LTVを高めるためのWeb接客を提供。

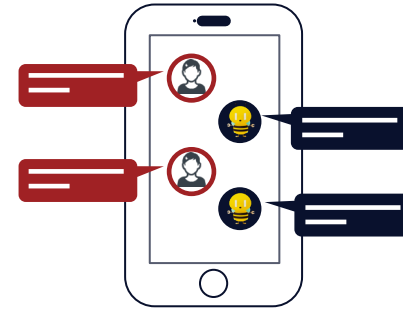
ヒートマップ アクセス解析



広告効果分析 メディア分析



チャットボット



A/Bテスト



ランディングページ A



ランディングページ B

PV数	4,691	PV数	12,196
CV数	314	CV数	196
CVR	6.69%	CVR	1.61%

LPO



POPUP



Robee 解約防止チャットボット

■ 解約防止、解約分析に特化した当社独自のチャット技術を搭載

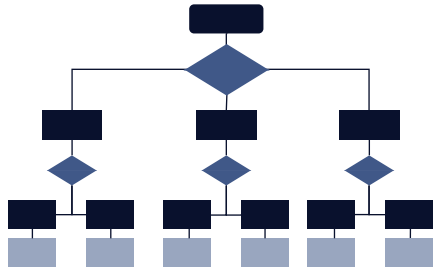
シナリオ型×AI

シナリオ型とAIのハイブリット



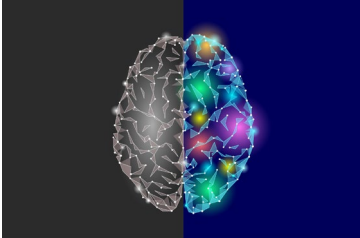
Decision Tree

解約傾向の分析力の向上



感情分析

ユーザーの企業に対するロイヤリティを分析



インテリジェンスレスポンス

人と会話しているようなコミュニケーション



<特許出願中>

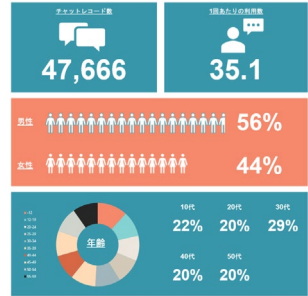
ゼロパーティデータの取得

解約理由等の定性データを直接取得



インフォグラフィックレポート

レポートの見やすさ向上



カテゴリ	値
メッセージング数	47,666
1回あたりの取得数	35.1
男性	56%
女性	44%
年齢	10代: 22%, 20代: 20%, 30代: 29%, 40代: 20%, 50代: 20%

当社の強み

① LTV予測力

データを解析しユーザー(消費者)のLTVを予測する技術

② コンサルティング力

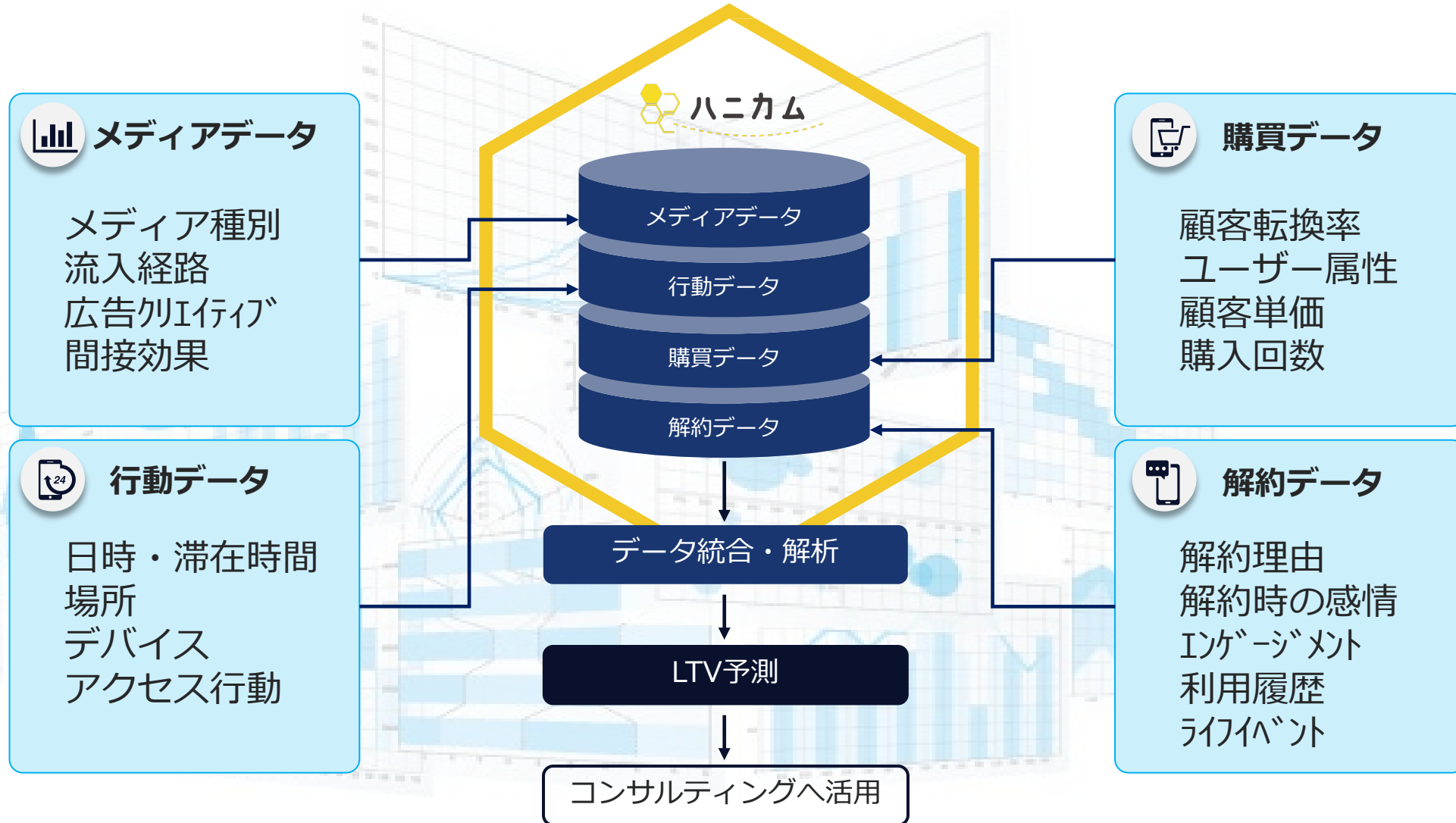
LTV予測技術を活用したコンサルティング力

③ LTV向上力

顧客転換率と顧客解約率改善によるLTV向上技術

① LTV予測力

- マーケティングデータと購買データを紐づけ、LTV予測モデルを構築



② コンサルティング力

- データを活用しLTVが高いユーザー(消費者)の集客コンサルティングサービスを成果報酬型で提供。



Consulting Fee

1件あたりの
成果報酬単価

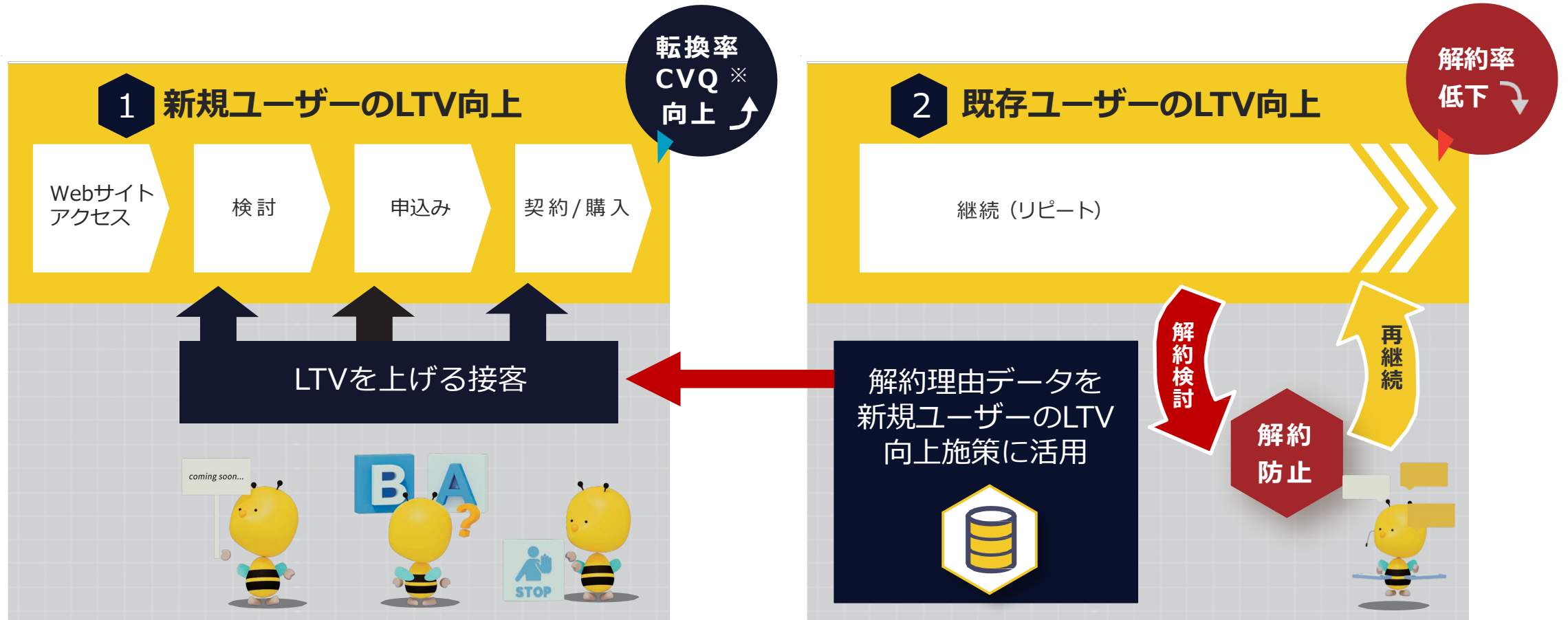


成果発生件数

初期費用なし
月額費用なし

③ LTV向上力

■ 新規ユーザーの顧客転換率やCVQを向上し、既存ユーザーの解約率を低下することでLTVを向上



※CVQ (Conversion Qualityの略) コンバージョンの質。企業・サービスにとって、高いエンゲージメントを獲得しやすいユーザー群を発見し、購入促進を行うこと。



Robee 解約防止チャットロボット

■ 解約率を下げLTVを向上するリテンション[※]チャットロボット機能を搭載。

導入メリット

1 解約率を低下

解約を検討するユーザーの不満解消をチャットロボットにより行い解約率を低下します

<解約防止率>

5% ~ 10%

2 解約理由の分析

解約理由に凝縮されたサービスへの不満や要望等、ユーザーの生の声を収集しリテンション施策に活用できます

※リテンション：既存顧客との関係維持

他社にはない特徴

1 人間（シナリオ型）×AIのケンタロウスモデル

AIによる自動化・効率化を目指すのではなく、人間とAIの協働により、より高い成果を創出します

2 デジタルホスピタリティを大事に

人ならではの気遣いや、柔軟な対応などをデジタル上でも大事にし、心地よいコミュニケーションの実現を目指します。

会話内容により表示速度を変化

属性や利用履歴により対応変化

感情や温度感により対応を変化

チャットロボットに性格を付与

3 データ解析と改善により成果創出を重視

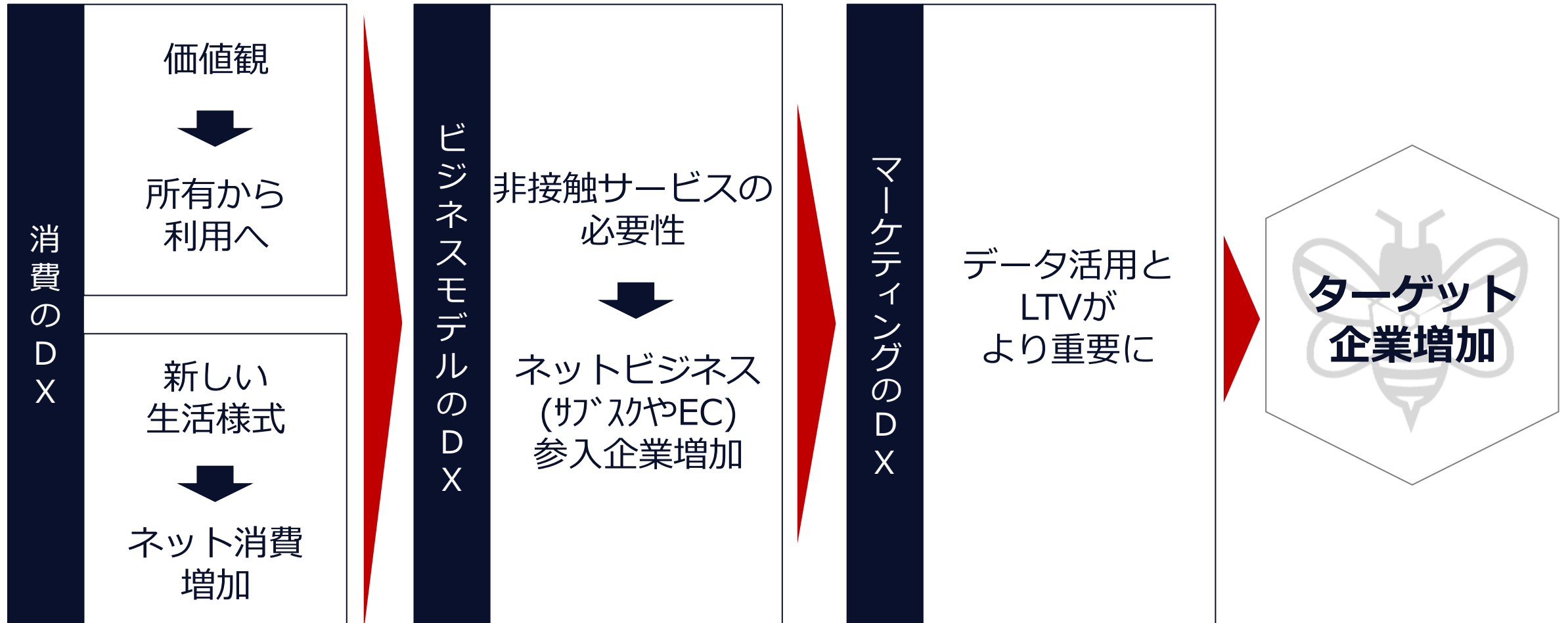
Decision Treeによるデータ解析により、シナリオの改善を図りより高い成果を創出します。



事業環境

消費者の変化とDX化の加速

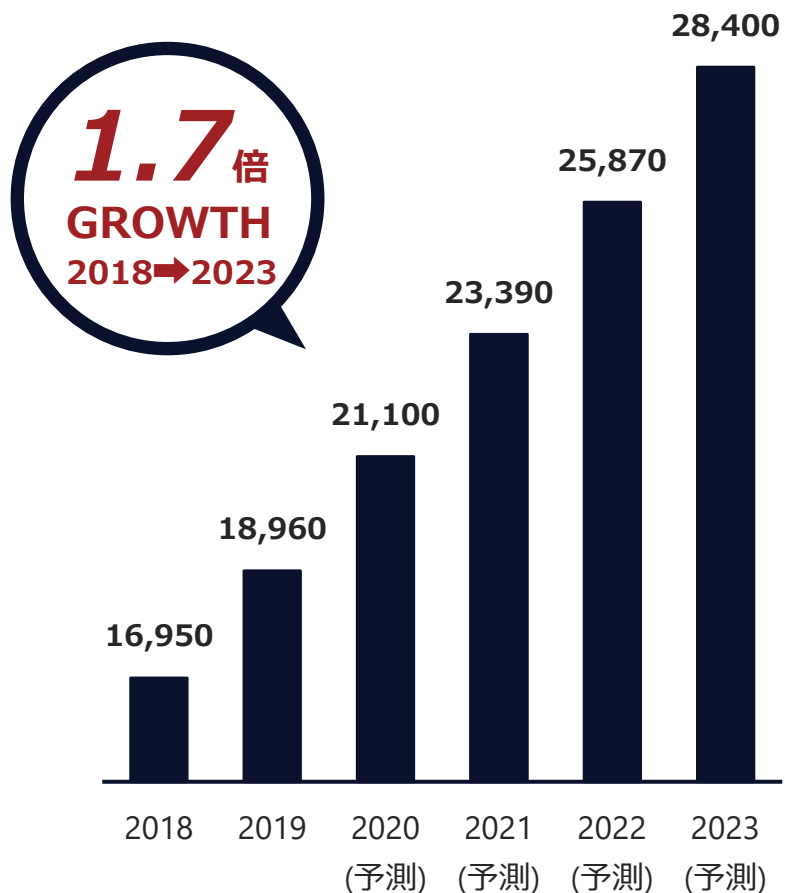
- 消費者の価値観や新しい生活様式により、ネットを介した消費サービスが増えることが見込まれる。それによりマーケティングでLTVを重視する傾向はさらに強くなり当社のビジネスチャンスは増える。



当社を取り巻く事業環境

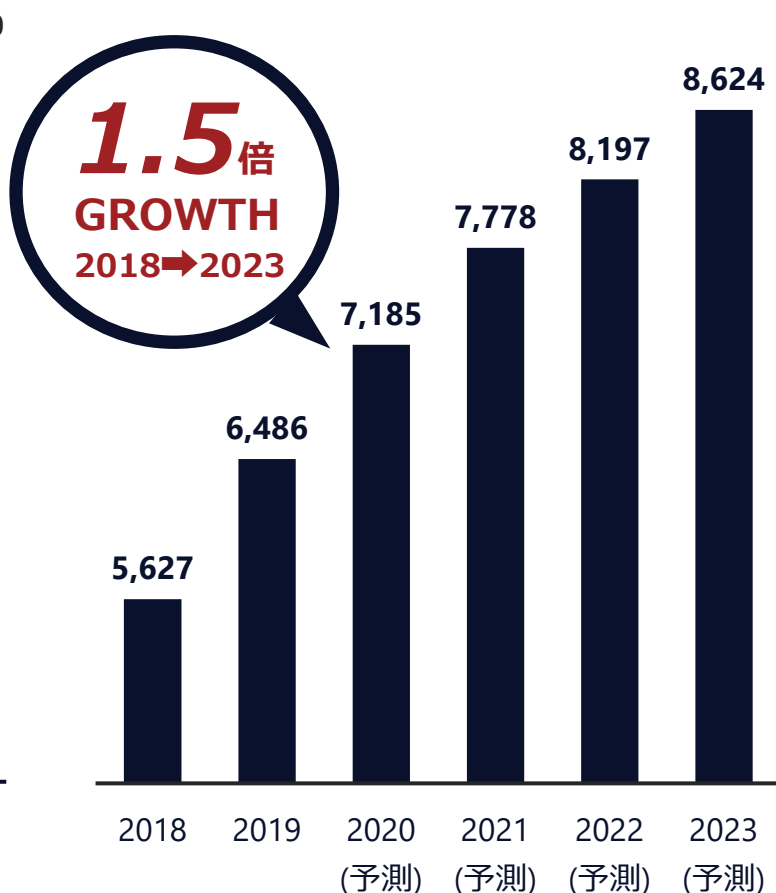
■ インターネット広告市場及びサブスクリプション市場やEC市場は今後も続伸することが見込まれる。

国内インターネット広告市場
(単位：億円)



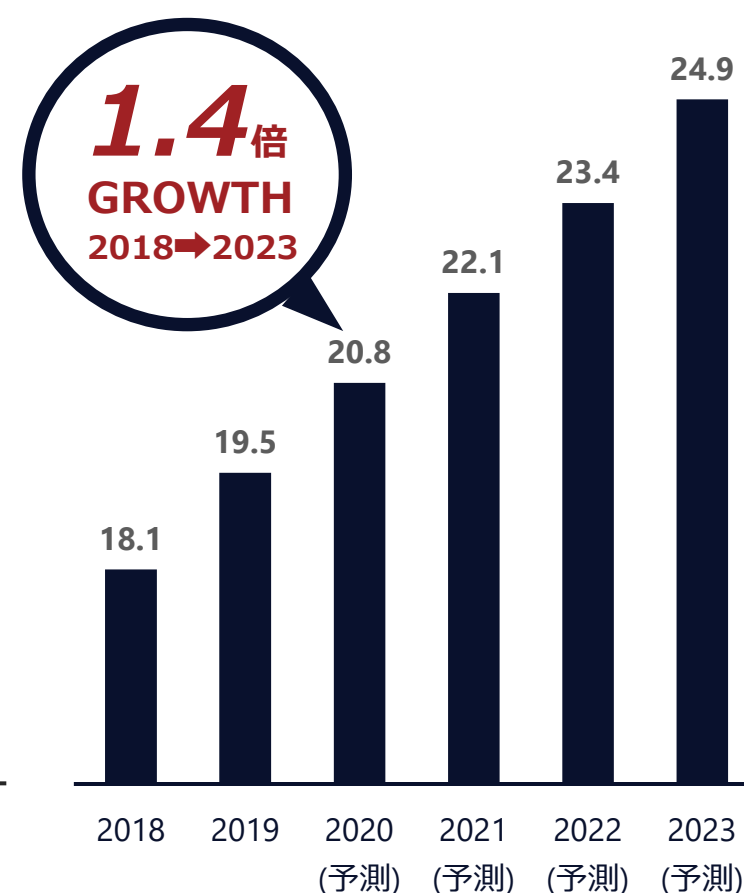
出所：矢野経済研究所
(2019 インターネット広告市場の実態と展望)

サブスクリプションサービス
国内市場規模予測 (単位：億円)



出所：矢野経済研究所
(2019 サブスクリプション (定額) サービスの実態と展望)

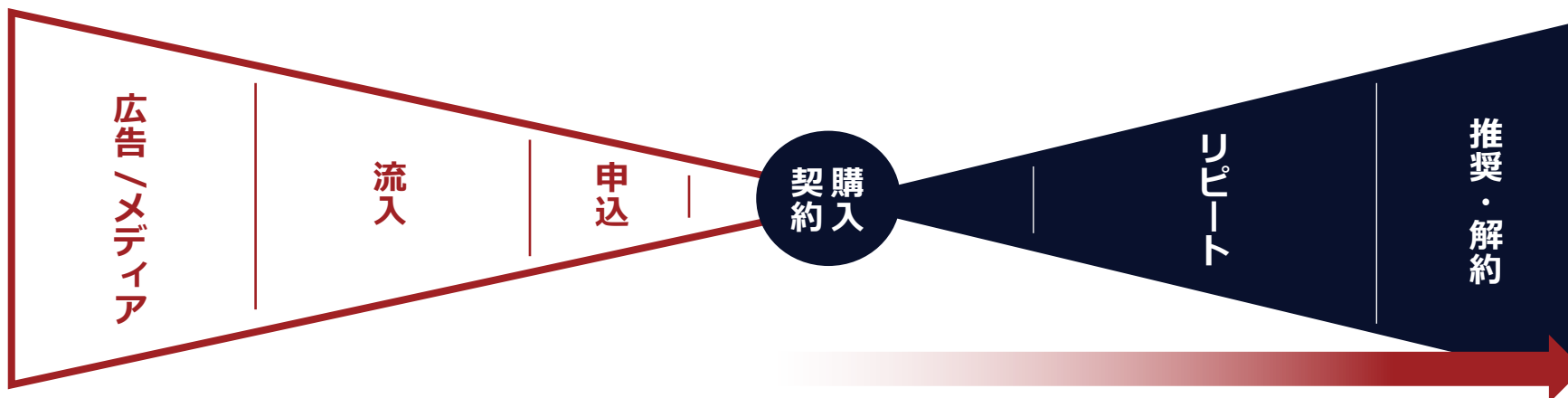
BtoC EC
国内市場規模予測 (単位：兆円)



出所：NRI
(ITナビゲーター2020年)

マーケティングでLTVの重要性が増す

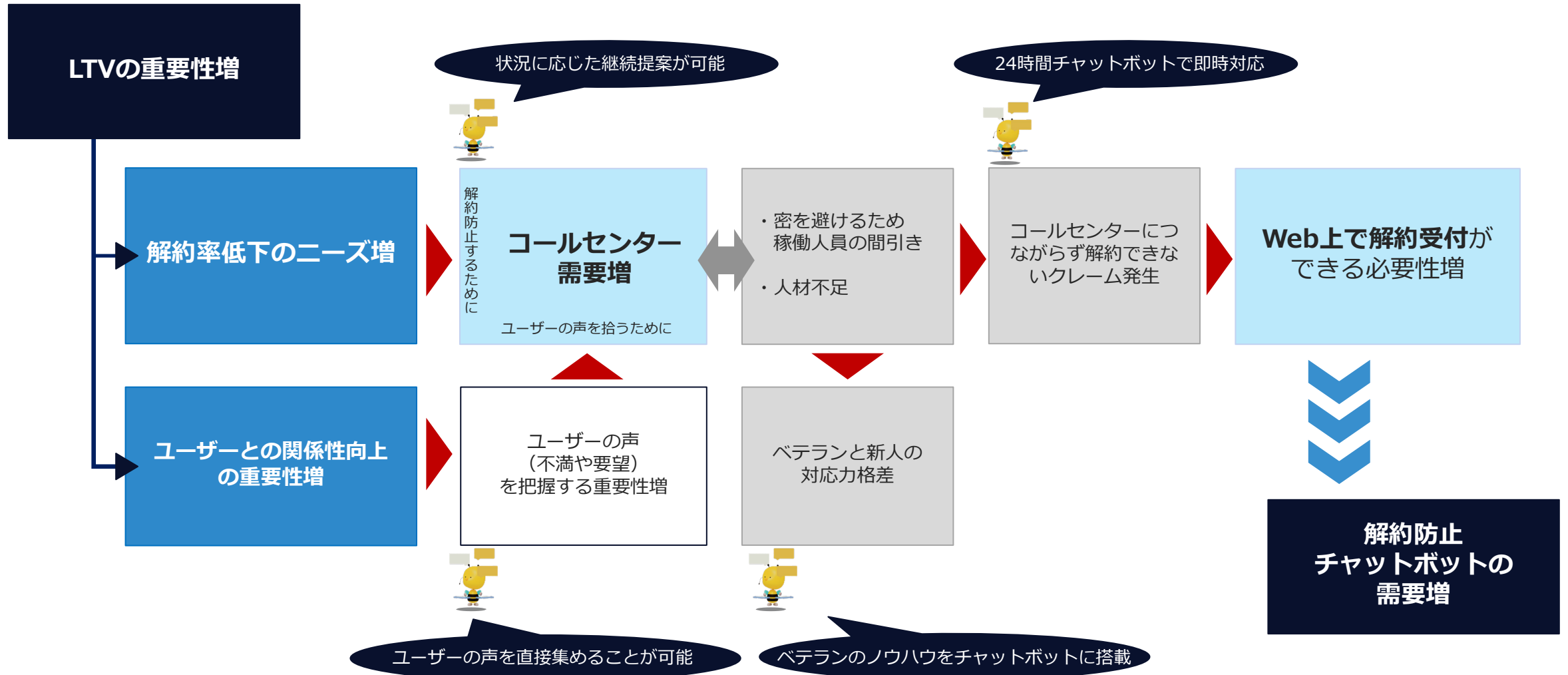
- これからのマーケティングは新規売上(単発)ではなく、LTVが重要になる。



	<これまで>	<これから>
	モノ売りモデル	継続収益モデル
達成目標	新規売上(単発)	LTV(顧客生涯価値)
達成手段	露出強化・広告最適化	ユーザーとの関係性向上

解約防止チャットボットの需要増

- LTVを重要視することで解約率低下ニーズが増えるだけでなく、コールセンターでは対応しきれないユーザーにチャットボットで対応をするニーズは増加すると見込まれる。





成長戰略

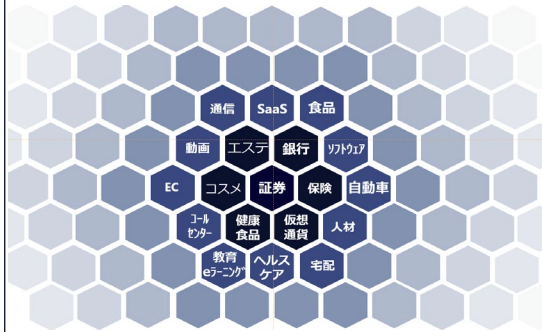
2021年4月期基本方針

基本方針

データ解析プラットフォーム「ハニカム」と
プロダクト「Robee」に積極投資を行い、様々な業界で
選ばれるプロダクトを開発
リテンションサービスのマーケットリーダーとなる

①他業種への展開

- ・美容・金融業界はもちろん
他業種への展開
 - サブスクリプションサービス
 - コールセンター需要へ対応



②データ拡大とAI化

- ・LTV予測力アップ
 - API連携の促進
 - データ取得範囲の拡大
 - 各種データ統合
 - AIによるレコメンド



③プロダクト開発

- ・LTV向上力アップ
 - チャットボット機能を強化
 - 感情・ロイヤリティの分析
 - コールセンターとの連携



① 他業種への展開

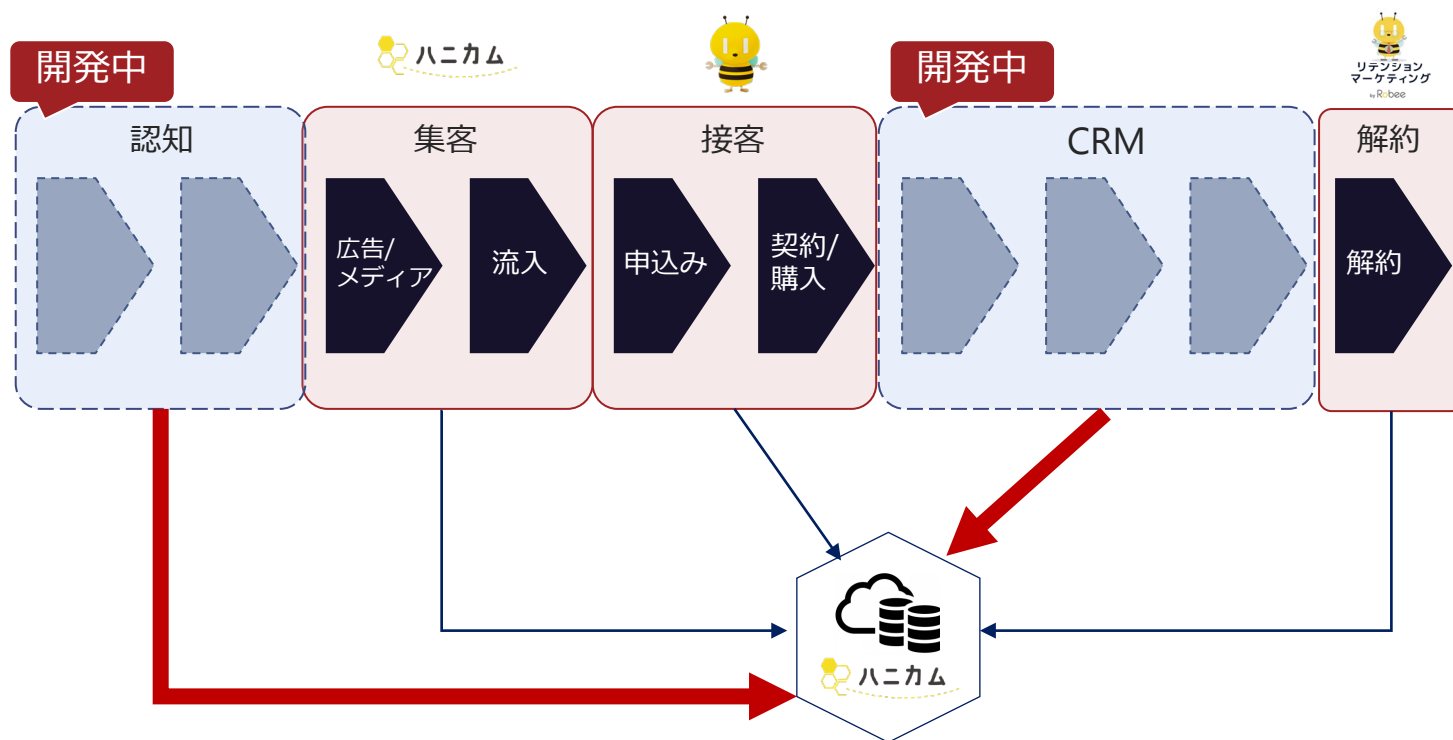
■ LTVの予測力、コンサルティング力を活かして、LTV・質を重視する他業種へ展開。



② データ拡大とAI化

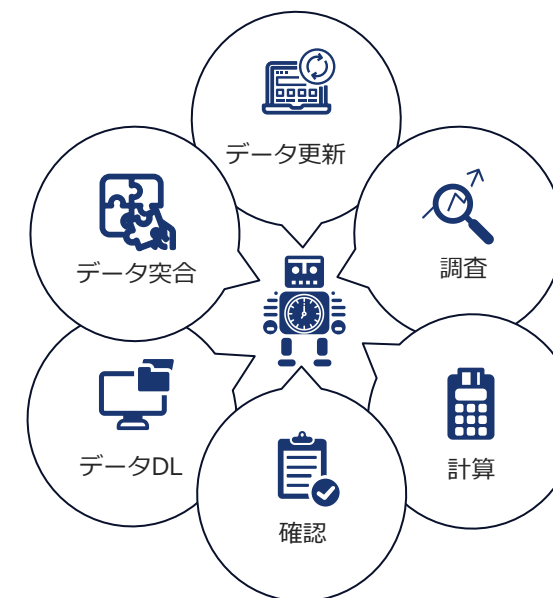
- 新たに、認知領域・CRM領域のデータ取得に向けて開発し、LTVに貢献する全施策の評価の実現を目指す。コンサル業務のRPA（自動）化に向けた取り組みも進捗。

データ領域の拡大と深化



認知施策～新規集客～解約まで一気通貫したデータ解析の実現へ

RPA化



コンサルタントの業務効率化に向けて作業のRPA化プロジェクトが進捗

一人あたり生産性（獲得粗利）向上へ

③ プロダクトの開発

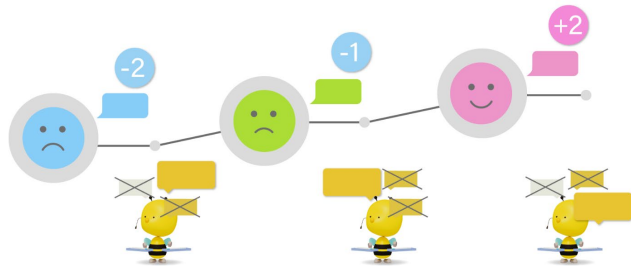
■ プロダクトの機能強化及び新規プロダクトの開発を行い、LTVをさらに向上。



Robeeに新機能「FRS」※搭載

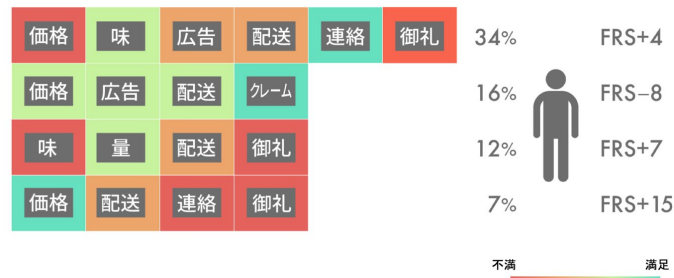
■感情のスコアリングにより、空気の読めるチャットボット、性格のあるチャットボットを実現。

ユーザーの温度感により 対応シナリオを変化



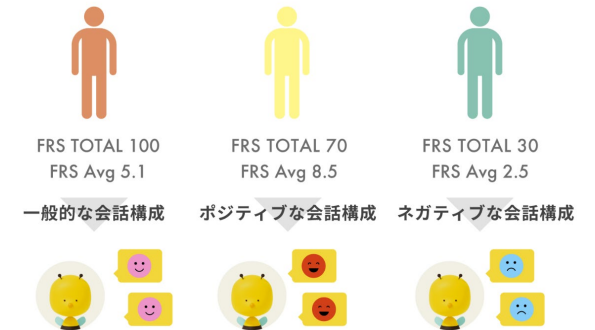
リアルタイムで空気を読み、ユーザーが好意的なのか反感をもっているかによって対応を変えることができます

ユーザーのペルソナの設計



ユーザーが何に満足をしていて何に不満を感じているのか明確になり、その割合が数値化されるため、既存ユーザーのより具体的なペルソナが明確にわかります

チャットボットに 性格を付与



シナリオ全体がポジティブなのかネガティブなのかが数値化され、評価ができるため、心地よい対応に向けたシナリオ改善が実現します

※FRS(Favorability Rating Score)・・・ユーザーの温度感を数値化する技術<特許出願中>

成長イメージ

① 継続収益モデルのノウハウを活かし他業種への展開

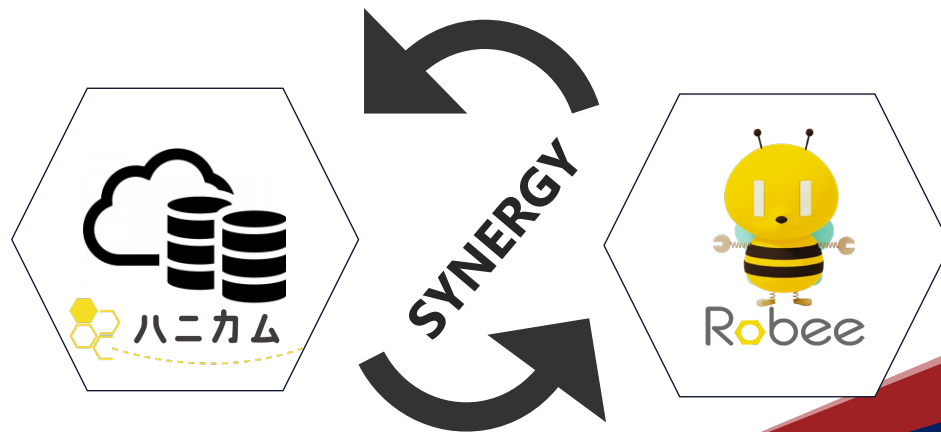
② データ拡大・AI化により、業界シェア拡大

③ 新規プロダクト開発による新たな収益を追求

③ 新規プロダクトの開発

② データ拡大とAI化による業界シェア拡大

① 既存事業の伸張
他業種への展開






2021年4月期2Q 業績

2021年4月期第2四半期 エグゼクティブサマリー

2021年4月期 第2四半期 業績サマリー	売上高 4,092百万円 (進捗率56.1%)	AC事業	新規	既存業界だけでなく新たな業界のクライアント獲得が進み、3Q以降の売上に貢献
	営業利益 335百万円 (進捗率83.9%)		既存	美容(EC)と証券が引き続き堅調に伸長し売上を牽引
	営業利益率 8.2%	MT事業	新規	問合せから新規クライアントの開拓が進み、3Q以降の売上に貢献
	既存		既存クライアントの成果創出が堅調に推移	
		業務改善	契約書、経理帳票の電子化を図り販管費率低下に貢献	

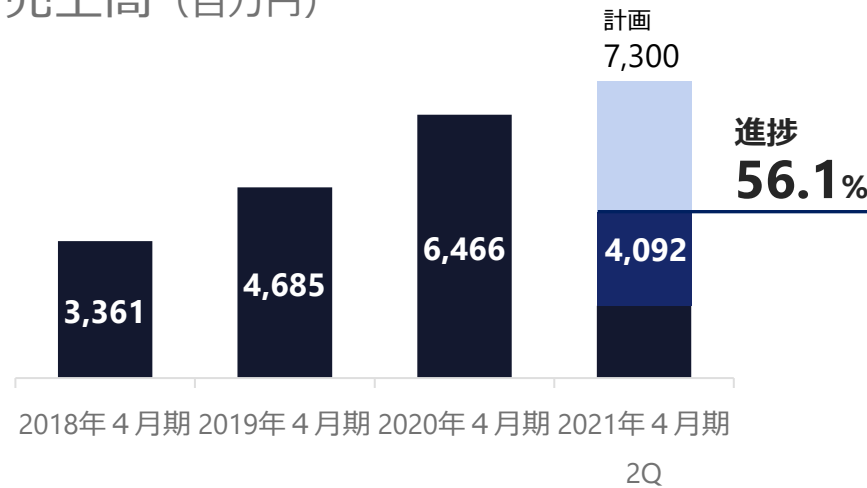
他業種への展開 AC事業、MT事業ともに既存業種とは異なる新しい業種への展開が進む 	データ拡大とAI化・プロダクト開発	
	株式会社ヘッドウォータースと業務提携	ヘッドウォータースのパーソナルレコメンド技術と、当社のマーケティングデータ及びノウハウを活用し、RobeeのAI化を目指す
	Robeeに新機能「FRS」を搭載 <small>※特許出願中</small>	感情のスコアリングにより、性格のあるチャットボットと空気の読めるチャットボットが実現

2021年4月期2Q業績サマリー

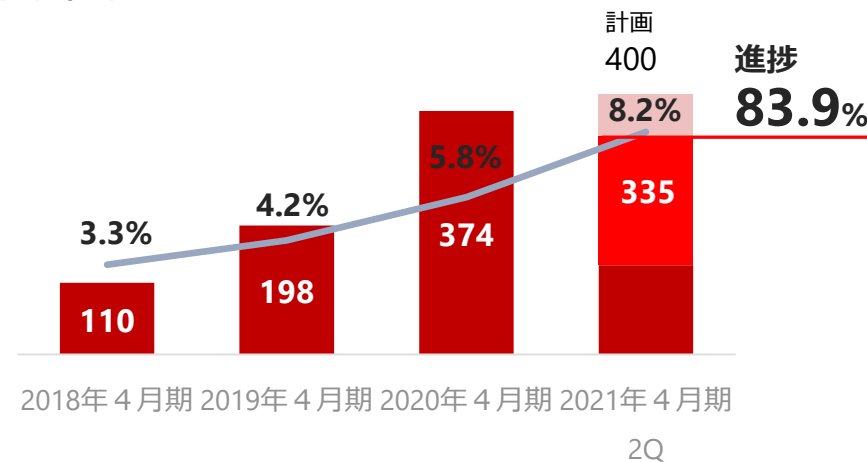
■AC事業・MT事業共に計画値を上回り過去最高益を達成。

(単位：百万円)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

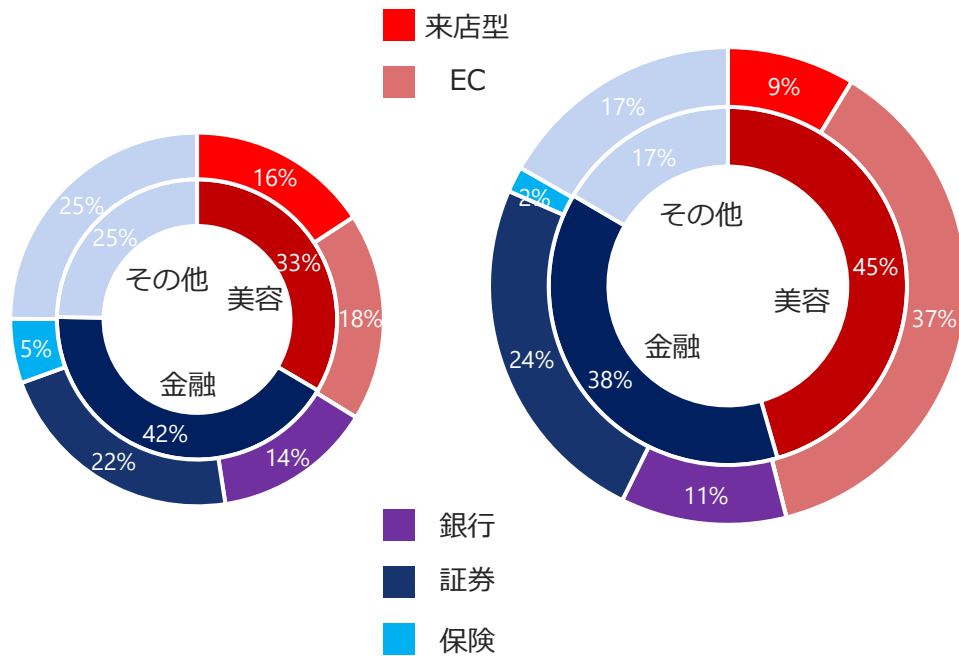


	2021年 4月期計画	2021年4月期 上期 累計	計画比 進捗率
売上高	7,300	4,092	56.1%
営業利益	400	335	83.9%
当期 純利益	276	240	87.1%
営業 利益率	5.5%	8.2%	-

業界別売上構成比率

■美容（EC）と証券の拡大が、当社の業績を牽引。

業界別売上構成比



2020年4月期

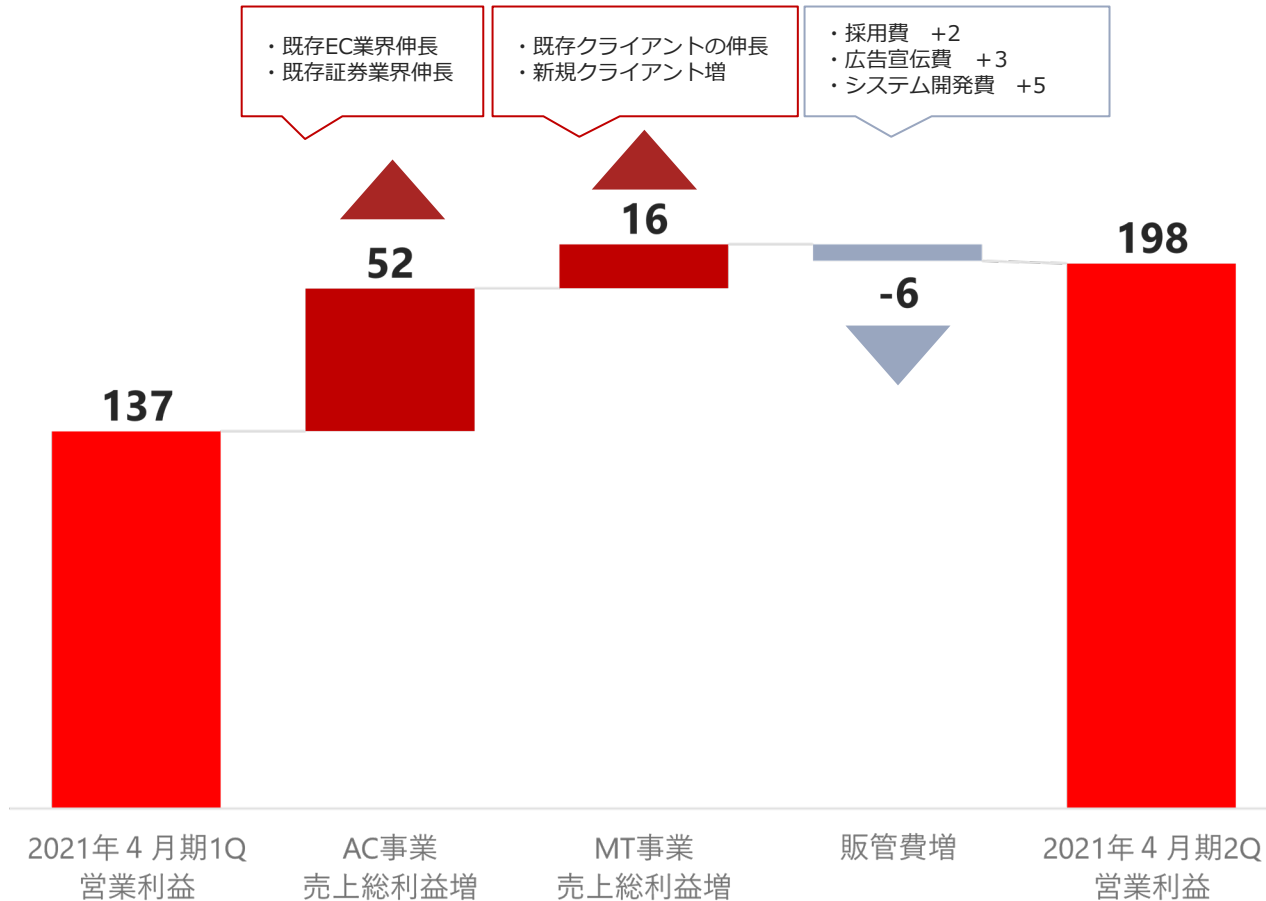
2021年4月期
2Q累計

	2020年 4月期	2021年 4月期 2Q累計	増減
美容	33.5%	45.5%	+12.0pt
来店型	15.6%	8.5%	-7.1pt
EC	17.8%	37.0%	+19.2pt
金融	41.8%	37.9%	-3.9pt
銀行	13.6%	11.1%	-2.5pt
証券	21.7%	23.9%	+2.2pt
保険	5.5%	1.7%	-3.8pt
その他	24.7%	16.6%	-8.1pt

QonQ営業利益増減分析

■ AC事業、MT事業ともに既存クライアントの伸長に加え新規クライアントの獲得が進む。
業務改善による生産性向上と販管費のコントロールもあり営業利益率は向上。

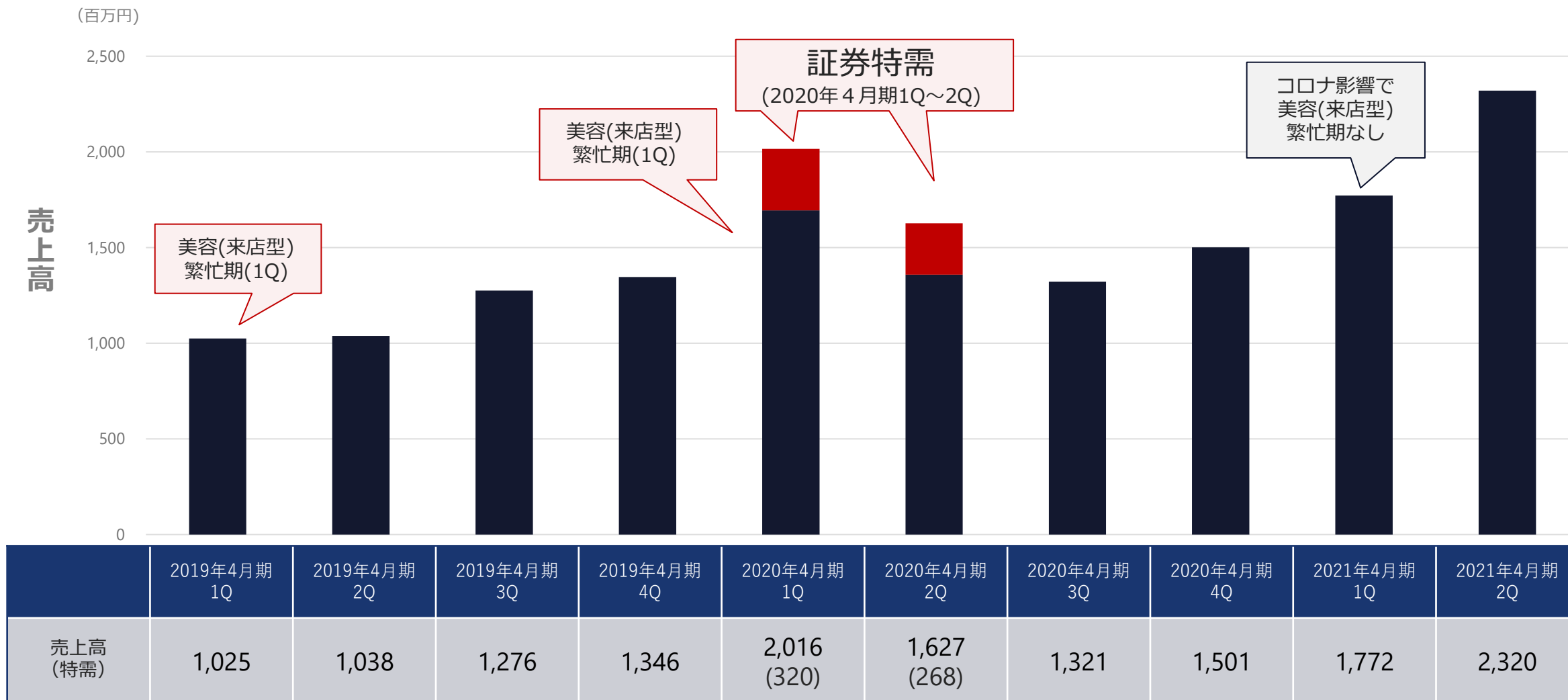
(単位：百万円)



	2021年 4月期 1Q 実績	2021年 4月期 2Q 実績	QonQ 増減額	QonQ 増減率
売上高	1,772	2,320	+ 548	+ 30.9%
売上 総利益	305	373	+ 68	+ 22.4%
AC事業 売上総利益	238	290	+52	+22.0%
MT事業 売上総利益	66	82	+16	+24.0%
販管費	168	175	+6	+4.1%
販管費率	9.5%	7.6%	-1.9pt	-
営業利益	137	198	+61	+44.9%
営業 利益率	7.7%	8.6%	+0.8pt	-

売上高トレンド

■ 2021年4月期では、前期の証券特需や美容（来店型）の繁忙期はないが、実力として成長。

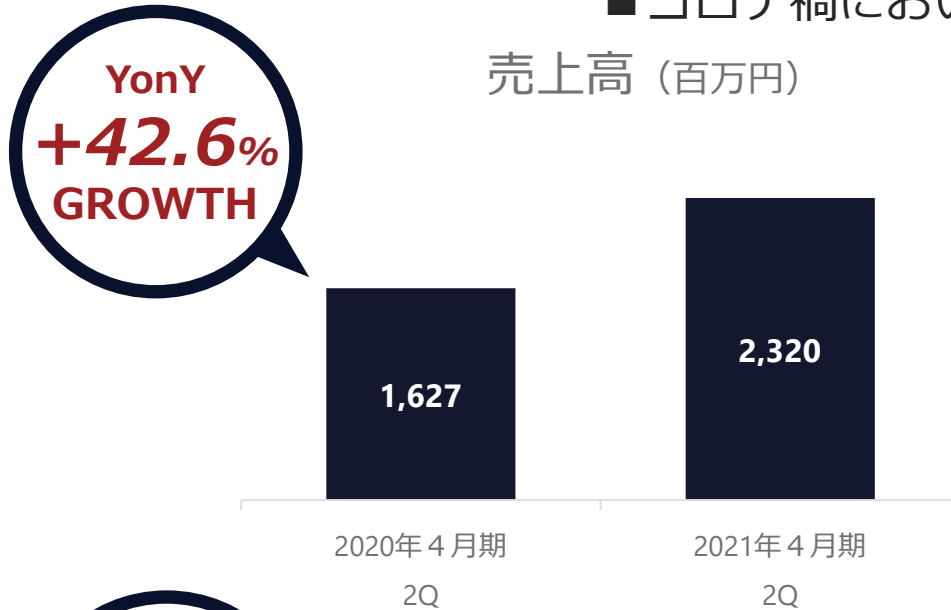


YonY比較

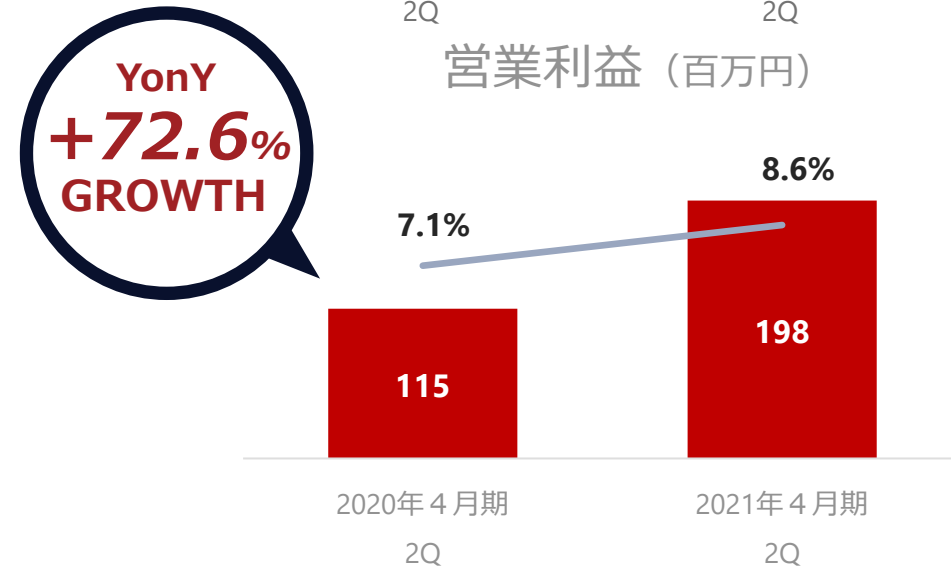
■ コロナ禍においても前年同期比で大幅成長。

売上高 (百万円)

(単位: 百万円)



営業利益 (百万円)

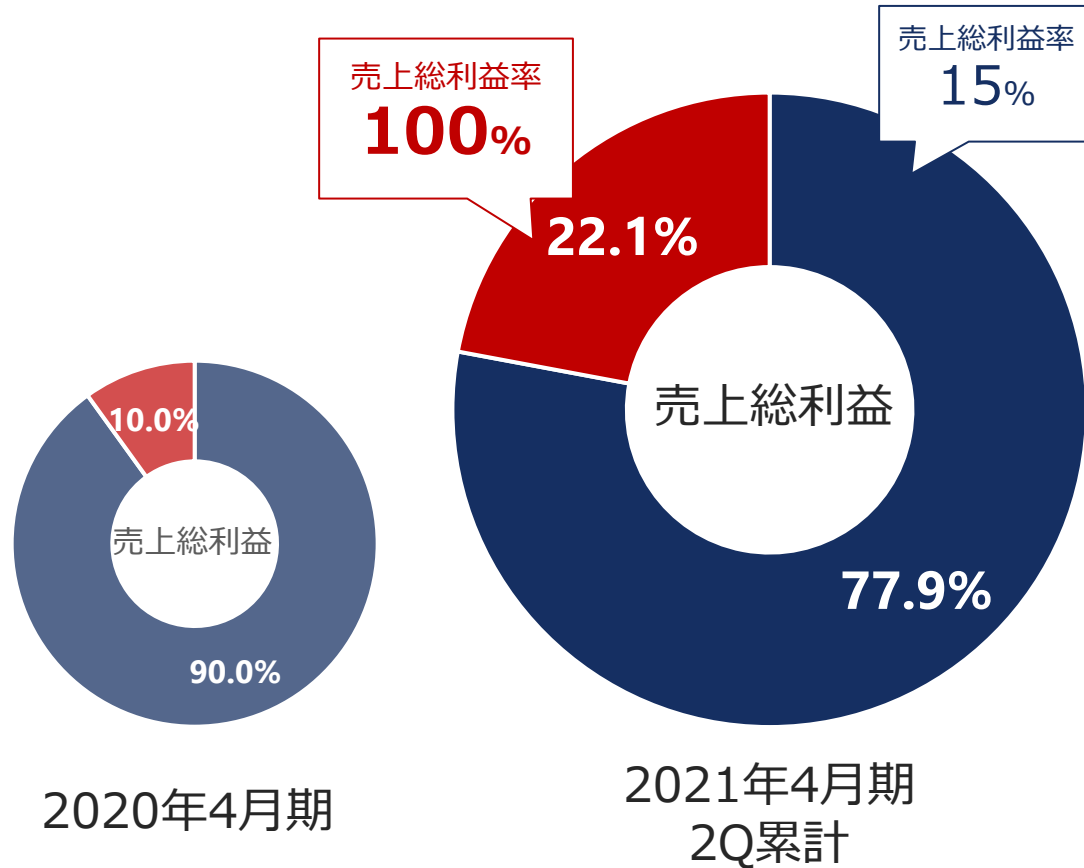


	2020年 4月期 2Q実績	2021年 4月期 2Q実績	YonY 増減額	YonY 増減率
売上高	1,627	2,320	+692	+42.6%
営業利益	115	198	+83	+72.6%
当期 純利益	75	144	+69	+92.4%
営業 利益率	7.1%	8.6%	+1.5pt	-

セグメント別売上総利益構成比

■ MT事業の売上総利益構成比率が向上し営業利益率が向上。

- アナリティクスコンサルティング事業売上総利益
- マーケティングテクノロジー事業売上総利益



(単位：百万円)

セグメント	売上総利益		売上総利益 構成比率		営業 利益率
	AC事業	MT事業	AC事業	MT事業	
2020年 4月期	1,056	116	90.0%	10.0%	5.8%
2021年 4月期2Q 累計	529	149	77.9%	22.1%	8.2%

貸借対照表

■手元流動性が向上し、かつ自己資本比率も57.1%。

(単位：百万円)

	2020年4月期	2021年4月期 2Q	増減額
資産	2,316	2,764	+448
流動資産	2,207	2,648	+441
(現金及び預金)	(1,370)	(1,511)	+141
固定資産	108	116	+7
負債	985	1,185	+20
流動負債	936	1,122	+185
固定負債	48	63	+14
純資産	1,331	1,579	+248
株主資本	1,330	1,579	+248

流動比率

236.0%

自己資本比率

57.1%



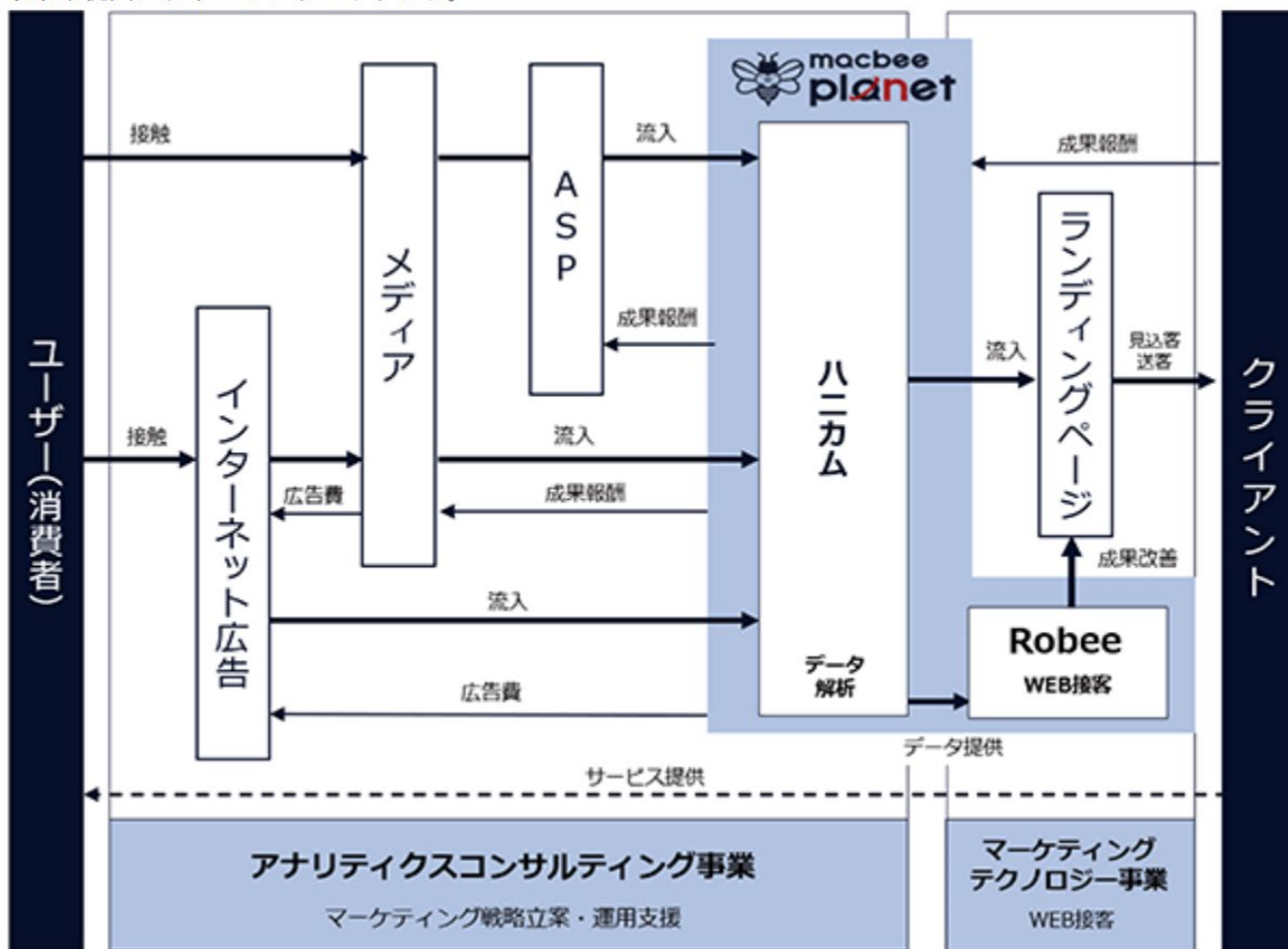
macbee
planet

appendix

事業系統図

[事業系統図]

事業系統図は以下のとおりであります。



AC事業

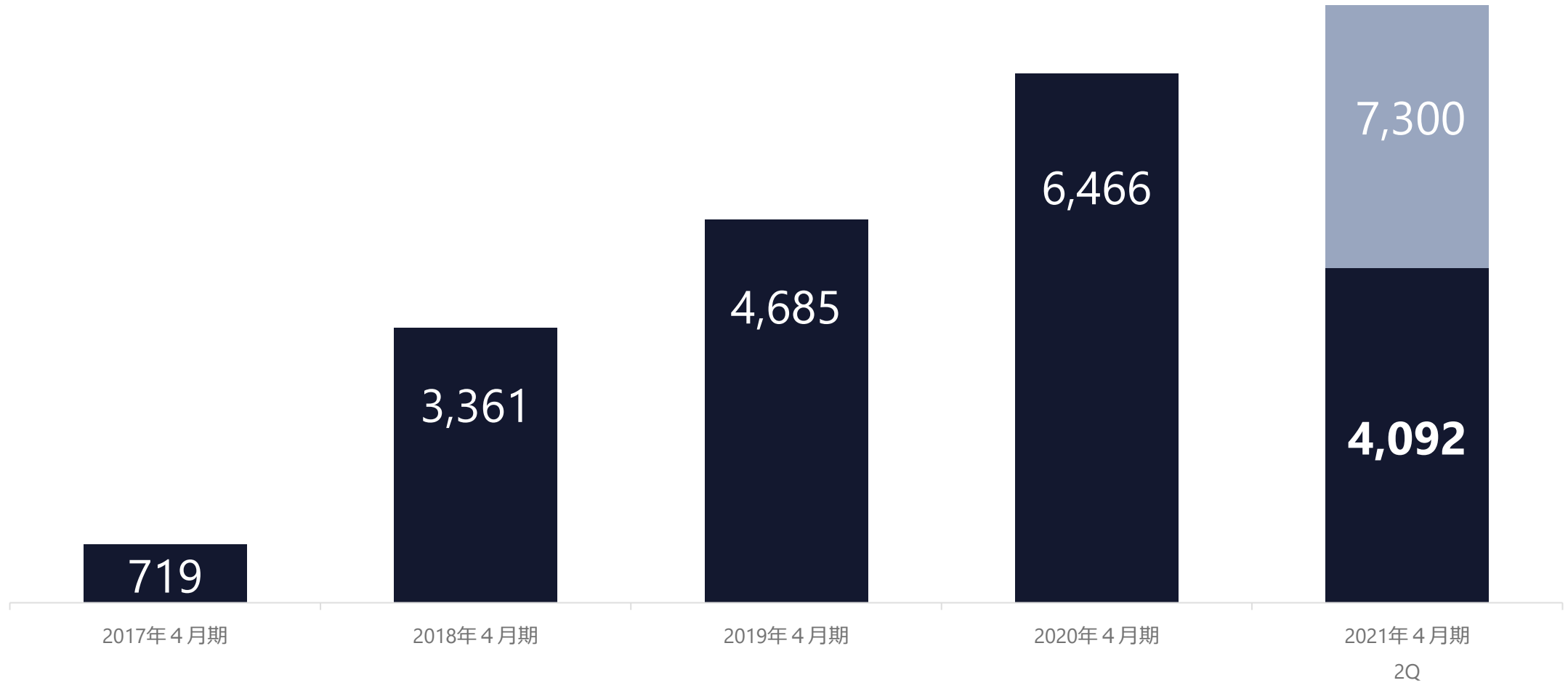
1件あたり成果報酬単価×成果件数

MT事業

料金プラン	Web接客	解約防止
①成果報酬	成果報酬単価×件数	
②月額固定	8万/月～	80万/月～
③コンサルティング	40万/月	
④月額+成果報酬	8万/月+	30万/月+

業績推移

売上高 (百万円)



セグメント別業績推移

	2020年4月期 1Q	2020年4月期 2Q	2020年4月期 3Q	2020年4月期 4Q	2021年4月期 1Q	2021年4月期 2Q
売上高	2,015	1,627	1,321	1,501	1,772	2,320
AC事業	1,990	1,599	1,291	1,468	1,702	2,237
MT事業	25	28	30	32	69	83
売上総利益	343	296	262	271	305	373
AC事業	317	268	231	239	238	290
MT事業	25	28	30	32	66	82
営業利益 (セグメント利益)	210	115	71	-23	137	198
AC事業	278	221	187	195	192	232
MT事業	13	6	-1	8	45	51
調整額	-80	-112	-114	-226	-100	-86

将来性の見通しについての注意

本資料には、将来の見通しに関する内容が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性等を含むため、将来の経営成績等の結果を保証するものではありません。

したがって、実際の結果は、環境の変化などにより、本資料に記載された将来の見通しと大きく異なる可能性があります。

上記のリスクや不確実性には、国内外の経済状況や当社の関連する業界動向等の要因が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・事象の発生等があった場合においても、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改訂等を行う義務を負うものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は当該情報の正確性、適切性等を保証するものではありません。